

インフルエンザA型(H1N1)

<第12報>

～WHO フェーズ6に引き上げ～

2009年6月12日 正午現在

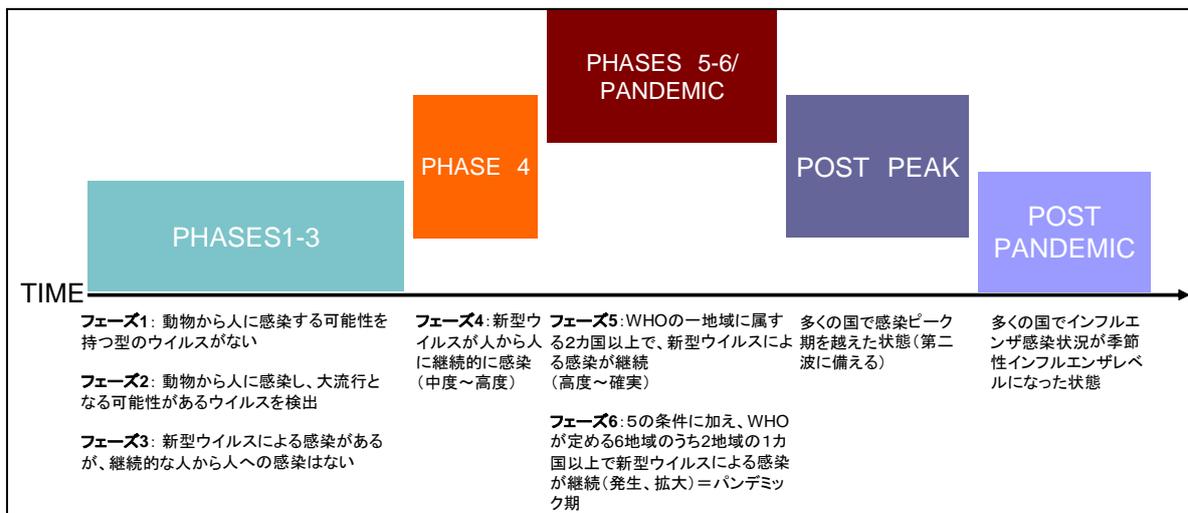
1. WHOの発表

<1> フェーズ6への引き上げを宣言

6月11日、世界保健機関（WHO）は新型インフルエンザの警戒水準をフェーズ5から最高度のフェーズ6に引き上げると宣言した。メキシコから始まった流行が米国・カナダにも広がり、南半球のオーストラリアでも持続的感染が確認されていることから、WHOは2地域（アメリカ、西太平洋）以上での流行という条件に達していると判断した。

なお、フェーズ6への引き上げを巡っては、北米での感染が英国やスペインに広がったときと、日本で多数の感染者が報告された時点で、すでにフェーズ6の条件を満たすと指摘されていた。しかし、WHOは世界経済への影響を考慮して慎重に検討を続けていた。

WHOの警戒レベルのフェーズ



<2> ウイルスの毒性は「中度」

WHOは地理的な広がりを示す警戒水準を引き上げただけでなく、今回はウイルスの毒性を「中度」であるとの判断を初めて示した。ただ、これはあくまで世界レベルでの毒性を示したもので、地域的な感染状況により、それぞれの国・地域で毒性を判断するべきだとも指摘している。現時点での世界レベルでの毒性を「中度」と判断したのは、米国等で重症者が目立ち、死亡、重症化した人の大半は30～50代だったことなどを考慮したためという。

注：WHOは11日の発表で、今回の新型インフルエンザの毒性を「中度」としたものの、「弱毒」、「強毒」等については言及していない。現時点での致死率は全世界で0.5%、死者が集中しているメキシコを除くと0.16%となり、今回の「中度」とは、季節性インフルエンザよりも強いが、スペイン風邪よりは弱いと言える。

< 3 > 感染拡大の軽減策に重点

WHO のチャン事務局長は各国に冷静な対応を求めており、世界各国にウイルスが広がっている状況にあるため、隔離等の封じ込め策よりも早期治療による感染拡大の軽減策に重点を移すよう訴えている。また、渡航の規制や国境封鎖などの措置は引き続き求めないとの立場を明らかにした。

(世界の感染者数等の詳細は別添「参考資料 1」参照)

2. WHO・チャン事務局長の記者会見要旨

6月11日、WHO のチャン事務局長の記者会見の要旨を要約すると以下の通り。

- 2009年6月11日現在、74カ国で3万人近い人への感染が報告されている。

(注：世界の感染状況については等の詳細は別添「参考資料 1」参照)

- 感染のさらなる拡大は不可避だと考えられる。
- 緊急委員会を招集し、専門家らはインフルエンザ・パンデミック（世界的大感染）を示す科学的要素を満たしていると全会一致で判断。インフルエンザ警戒レベルを5から6へ引き上げることを決定した。
- 世界は今、パンデミックの初期の状態にあるが、状況が急速に変化する可能性もある。
- 世界的に見ると、今回のパンデミックの毒性は「中度」と判断。ただ、(同じ毒性のウイルスでもその影響は) それぞれの国の状況などによって異なる。
- 感染者の大多数は症状が軽く、治療を受けなくても早期に完治している。
- 世界的な死者の数も少ない。今後、重症患者や死者の数が急速に増える可能性は低い。
- 新型インフルエンザ (H1N1) は若い人に感染しやすい。
- 感染者の大半を25歳未満が占め、約2%が重篤化している。
- 重篤化した感染者の1/3から半数が健康な若者と中年である。重症化・死亡する症例の大半は30歳から50歳で、高齢者に多くの死者が出る季節性インフルエンザには見られない新型インフルエンザの特徴である。
- 重篤患者の多くには、喘息などの呼吸器疾患、心臓血管疾患、糖尿、自己免疫疾患、肥満などの慢性疾患が認められた。
- 妊婦は合併症を引き起こすリスクが高い。
- 医療体制が乏しい発展途上国での感染の影響を懸念
 - － 発展途上国では医療体制の欠如を示す妊婦の死亡率が高い
 - － 世界の慢性疾患の約85%は発展途上国と中所得国に集中している
- 今後、感染はさらに拡大することが予想され、すでに感染のピークが過ぎた国でも第2波に備える必要がある。
- ワクチンは近々に製造が開始される。
- WHO では渡航の制限や国境閉鎖などの措置は引き続き推奨しない。

3. 政府の対応と国内における感染状況

< 1 > WHO フェーズ引き上げへの政府の対応

日本政府はWHO フェーズが6に引き上げられても国内の状況は変わらないため、対処方針の変更等、国内対応を厳しくすることは避け、現体制を維持する方針である。

< 2 > 国内における感染状況

国内では12日にも各地で新たな感染が報告され、同日午前現在で国内の感染者数は累計で548人となった。秋田県で初めての感染者が報告されたほか、東京都では港区の私立高校で生徒8人と教師3人の感染が確認された。都内で集団感染が確認されたのは初めて。

日本の感染都道府県(日本時間6月12日午前現在)

日 時	6月12日
感染確定都道府県数	22 都道府県
都道府県名	感染症例(死亡症例)
兵庫	205 (0)
大阪	161 (0)
福岡	50 (0)
千葉	43 (0)
東京	28 (0)
このほか 神奈川、埼玉、滋賀、京都、静岡、和歌山、新潟、山梨、愛知、山口、徳島、岩手、広島、鳥取、宮城、北海道、秋田、成田空港(検疫)	
合計	548 (0)

■ 前報以降、新たに感染が確認された地域

※SJRM 集計

【参考資料 2:世界の感染状況】

世界の感染確定症例・死亡症例数(WHO 6月11日 発表)

日 時	6月11日	第11報時点6月3日
感染確定国・地域数※1	75 力国	66 力国
国 名	感染症例(死亡症例)	感染症例(死亡症例)
米国	13,217 (27)	10,053 (17)
メキシコ	6,241 (108)	5,029 (97)
カナダ	2,446 (4)	1,530 (2)
チリ	1,694 (2)	313 (0)
オーストラリア	1,307 (0)	501 (0)
英国	822 (0)	339 (0)
日本	518 (0)	385 (0)
スペイン	357 (0)	180 (0)
アルゼンチン	256 (0)	131 (0)
パナマ	221 (0)	155 (0)
中国	174 (0)	69 (0)
コスタリカ	104 (1)	50 (1)
ドイツ	95 (0)	28 (0)
ドミニカ共和国	91 (1)	11 (0)
ホンジュラス	89 (0)	2 (0)
フィリピン	77 (0)	16 (0)
フランス	73 (0)	26 (0)
エルサルバドル	69 (0)	41 (0)
イスラエル	68 (0)	33 (0)
エクアドル	67 (0)	39 (0)
ペルー	64 (0)	40 (0)
グアテマラ	60 (0)	14 (0)
イタリア	54 (0)	30 (0)
韓国	53 (0)	41 (0)
ニカラグア	45 (0)	1 (0)
ブラジル	40 (0)	20 (0)
コロンビア	35 (1)	20 (0)
オランダ	30 (0)	4 (0)
パラグアイ	25 (0)	5 (0)
ウルグアイ	24 (0)	15 (0)
ニュージーランド	23 (0)	10 (0)
スイス	20 (0)	10 (0)
スウェーデン	19 (0)	7 (0)
クウェート	18 (0)	18 (0)
シンガポール	18 (0)	9 (0)
ベトナム	16 (0)	3 (0)
ベルギー	14 (0)	13 (0)
ノルウェー	13 (0)	4 (0)

国名	感染症例(死亡症例)	感染症例(死亡症例)
ベネズエラ	13 (0)	3 (0)
アイルランド	12 (0)	4 (0)
ルーマニア	11 (0)	5 (0)
デンマーク	10 (0)	1 (0)
エジプト	10 (0)	1 (0)
ジャマイカ	10 (0)	2 (0)
トルコ	10 (0)	4 (0)
インド	9 (0)	1 (0)
レバノン	8 (0)	3 (0)
タイ	8 (0)	2 (0)
オーストリア	7 (0)	1 (0)
ギリシャ	7 (0)	5 (0)
ポーランド	7 (0)	4 (0)
ボリビア	5 (0)	3 (0)
キューバ	5 (0)	4 (0)
マレーシア	5 (0)	2 (0)
チェコ	4 (0)	1 (0)
エストニア	4 (0)	1 (0)
フィンランド	4 (0)	4 (0)
ハンガリー	4 (0)	1 (0)
バルバドス	3 (0)	-
アイスランド	3 (0)	1 (0)
ロシア	3 (0)	3 (0)
スロバキア	3 (0)	2 (0)
ブルガリア	2 (0)	1 (0)
イギリス領ケイマン諸島	2 (0)	-
ポルトガル	2 (0)	2 (0)
トリニダード・トバゴ	2 (0)	-
パハマ	1 (0)	1 (0)
バーレーン	1 (0)	1 (0)
キプロス	1 (0)	1 (0)
ドミニカ	1 (0)	-
ルクセンブルグ	1 (0)	-
サウジアラビア	1 (0)	-
ウクライナ	1 (0)	-
アラブ首長国連邦	1 (0)	-
合計	28,774 (144)	19,273 (117)

■新たに感染が確認された国・地域

■感染症例数が増加した国・地域

※ 上記合計には、台北で確認された感染症例数 36 人と死亡症例数 0 人が含まれます。

※1 感染確定国・地域数は SJRM にて集計しております。